

29. <sup>131</sup>I-MIBG シンチグラフィーが有用であった翼口蓋窩発生の Paraganglioma の 1 例

吉田 大輔	吉田 祥二	西本 均
上池 修	山本 洋一	前田 知穂
		(高知医大・放)
赤木 直樹		(同・放部)
岸本 誠司		(同・耳)

症例は 40 歳の男性であり、右頬部しびれ感、高血圧

を主訴とし、CT および MRI により右翼口蓋窩骨壁内より右上顎洞、中頭蓋窩へ進展する腫瘍を認めた。骨シンチ、Ga シンチでは CT 所見に一致する骨破壊を伴う腫瘍以外の情報は得られなかった。血管造影では hyper-vascular mass が認められ、同時施行 venous sampling では右内頸静脈系でのノルアドレナリン値の有意な上昇を認めた。腫瘍のノルアドレナリン分泌能を見るべく <sup>131</sup>I-MIBG シンチグラフィーを行い、腫瘍部に一致して著明な集積を認め、腫瘍の局在・性状診断に非常に有用であった。